

山形コロニー ういる天童 自己評価表
【児童発達支援】

山形コロニー ういる天童では、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検を実施しました。より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域のみなさまに安心して利用していただくことを目的としています。

なお、この自己評価表は厚生労働省が定める「児童発達支援ガイドライン」及び「放課後等デイサービスガイドライン」をもとに作成した「保護者向けアンケート」の回答結果、及び自事業所の自己チェックとなる「事業所向けアンケート」の意見等を踏まえ、「自己評価」としてまとめたものです。

○：おおむね良好といえる

▲：より良くしていきたい

×：改善が必要

		チェック項目	保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○ ※ こどもが走り回る環境としては、少し狭い。等の意見もあり。	▲	・小さな施設なので、限られたスペースの中で目的に応じた活動ができるよう工夫しています。今後は、より良い環境で活動できるよう、現在新施設を建設中です。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	○	○	・配置数は、基準上2名で良い事業所ですが、3倍超の人員を配置しております。また、職員は、社会福祉士3名、保育士、児童指導員の有資格者を配置しています。
	③	事業所の空間や設備等は、子どもたちの活動に合わせた環境になっているか。また、環境には分かりやすい工夫やバリアフリー等の配慮がなされているか	▲	▲	・玄関等に段差があり、バリアフリー施設ではないので、全ての方がアクセスできるよう、合理的配慮をとる体制を整備しています。現在建設中の新施設はバリアフリー施設です。
	④	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか	○	○	・開所前後の清掃や使用する遊具等の消毒等は、日常業務で徹底しており、安心安全な環境づくりに努めています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	—	○	・計画に沿った支援を提供できるよう、週単位のミーティングと、支援前後に行う日々のミーティングを行い、PDCA管理の実践をしています。
	⑥	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	—	○	・今後も、継続してご意見をいただきながら、より良いサービスの提供に努めています。
	⑦	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	—	○	・このアンケート結果をホームページで公表し、周知することで、情報公開を行っています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、調査結果を業務改善につなげているか	—	○	・今年度は、県の実地指導を受けました。このような第三者の指導等を踏まえ、より良い業務管理と法令順守に努めています。なお、当法人では、事業所間で確認し合う内部監査を今年度から始め、適正な運営に向け取り組んでいます。
	⑨	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	—	○	・研修計画に基づくOJT、OFFJT等、必要な研修機会を確保しています。また、今年度は主催研修会を開催し、保護者や関係機関、地域等が参加できる研修機会も提供しました。 ・職員向けは、今年度の重点専門研修として「ペアレントトレーニング研修」を毎月実施し、支援力の向上に力を入れてきました。
適切な支援の提供	10	子どもと保護者のニーズや課題等を捉えた児童発達支援計画が作成されているか	○	▲	・現状の課題やニーズを捉えた計画を立て、目標が1つ1つ達成できることを意識したプランニングを心掛けています。今後は、より保護者や利用児等と面談機会等を重視し、ニーズや課題等を捉える体制を整えていきます。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	—	○	・独自のアセスメント様式や遠城寺式発達検査表等を用いて、客観的な発達状況等の確認・把握に努めています。
	⑫	子どもの支援に必要な「発達支援」「家族支援」「地域支援」の項目が、児童発達支援計画で設定され、支援が提供されているか	○	▲	・ミーティングを重視し、毎日、職員間で個々の計画の共有、ねらいを持った関わりや支援の提供のための機会を持っています。しかし、共有すべき情報等は多岐にわたるため、今後は現状以上に効果的なミーティングを通じて、個々の活動に反映できるよう工夫していきます。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	—	○	・子どもに対する活動等の設定は、全て計画に沿っています。また、子育ての主体である保護者が、子どもの努力や成長に気付き、家庭でも効果的に育んでいくよう、母子通所型の療育を特徴とした支援も、計画に沿って実施しています。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	—	○	・週間ミーティングと日々のミーティングの中で、個別支援計画に基づく活動プログラムを職員間で話し合って組み立てています。
	⑮	活動プログラムは、個々の計画等に応じた工夫がなされているか	○	▲	・活動プログラムは、個々の計画に沿った活動設定を行っています。 今後は、今以上に個々の発達段階や課題等に応じた活動設定や、グループ設定、環境設定等を行えるようにしていきたいと考えております。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	—	○	・課題学習をより効果的に進めて行くために、活動環境やグループ設定等を検討しています。また、個別活動や集団活動それぞれにねらいを持って計画を作成しています。

	(17) 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	—	○	・職員間で話し合って作成した、日ごとの『支援管理表』を使用しています。支援者が、1日の動きや支援内容、支援者の役割等が具体的に把握し、ねらいに合った関わりができるよう工夫しています。
	(18) 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	—	○	・支援終了後に毎日振り返りを行い、支援の中で気付いた点等の報告や、より良い対応策等を行うための意見交換、課題設定等を話し合い、次の活動に繋げています。
	(19) 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	—	○	・職員には、第三者が見ても支援状況が正しく読み取れる記録できるよう研修しています。また、ミーティング時に職員間で記録の確認を行い、その記録をもとに支援を考えていきます。
	(20) 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	—	○	・定期的なものや必要時等、適宜モニタリングを実施し、計画内容の見直しや目標の再設定等を行っています。
関係機関や保護者との連携	(21) 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	—	▲	・主に児童発達支援管理責任者が参加しています。今後は、保育士等も外部機関等との会議等で、計画に沿った報告や課題検討等を行う機会を持てるような体制づくりをしていきます。
	(22) 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	—	○	・市町村の母子保健担当者や発達相談室等と連携し、療育の提供から支援経過の共有等を行っています。
	(23) 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、地域の保健や医療、子どもの主治医、福祉や教育等と連携した支援や連絡を行う体制を整えているか	—	○	・当事業所は、医療的ケアを要する児童の受け入れ体制を持っています。 ・医療的ケアが必要のない児童でも、必要がある場合には、かかりつけ医等との連携や、服薬等のサポート等を行える体制を持っています。
	(24) 移行支援として、保育所や幼稚園等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	—	○	・保育園や幼稚園を併用する方が多いので、適宜訪問し、園での様子や課題等を共有できるよう連携を図っています。特に当事業所は、子どもの成長に伴い、活動の割合を段階的に療育から園に無理なく移行させていくことを大切にしています。
	(25) 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	—	▲	・常から就学移行を見据えた療育支援を意識しています。また、就学先への情報提供も行っています。一方で、保育園等を併用する方が多いので、小学校等への移行連携は園が主体となっている傾向があります。
	(26) 児童発達支援センター・発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	—	○	・課題や問題意識を持って、専門機関等の研修等に精力的に参加しています。また、継続して発達障害等の専門医から指導を受け、日常のケース相談等も指導を受けています。
	(27) 地域の方々との交流や、地域の中で活動する機会があるか	※散歩時に、地域の方と挨拶をする機会がある。どんな活動が地域活動や交流といえるかわからない。等の意見あり。	▲	・地域住民も交えて、秋の収穫祭や芋煮会を開催する等、交流機会等を設定してきました。また、周囲の畑や学校、公民館、体育施設等に触れながら活動しており、地域に根付いた事業を意識しています。
	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	—	○	・天童市の協議会は、委員参集する会議のみで、地域のサービス事業所は参加できない状況です。私たちは、地域の事業所等が集まり意見交換等を行なう連絡会を自主的に構成し、民間レベルで地域福祉向上のための活動を行っています。
	(29) 曜日から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	※少しでも話ができると有難い。聞かない・わからない時もある。等の意見もあり。	○	・「連絡帳」を活用していますが、出来るだけ対面で保護者に活動内容や様子、連絡事項などをお伝えしています。また、家庭等での様子や取り組み等の把握にも努めています。
	(30) 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレンツ・トレーニング等の支援を行っているか	—	○	・保護者に対しては、座学研修ではなく、普段の母子活動の中で、場面場面で「関わるポイント」や「ほめ方」、「減らしたい行動」と「増やしたい行動」等の整理等について、一緒に確認を進めてきています。
	(31) 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○	○	・利用契約の際に説明しています。運営規定、重要事項説明書等に変更があれば、隨時説明し、同意をいただいています。
	(32) 保護者に対して、面談・相談・助言等の支援が行われているか	○ ※理想はわかるがそこに近づく為の適切な助言等はあまりない。との意見もあり。	▲	・発達のこと、他者との関わりのこと、就園や就学のこと等の希望や不安等の相談の中で、必要な情報提供や子育てにおける助言等を実施しています。今後は、もっと保護者と話す機会を増やし、話し合っていくよう努めています。
	(33) 児童・保護者が一同に介する行事等の開催等により、保護者同士の連携・関係づくり等が支援されているか	○ ※活動参加の際に話せることはリフレッシュにもなり有難い。土曜日にした勉強会を定期的に開催したらよいと思う。子ども同士の交流は特性もあり難しい。等の意見もあり。	○	・保護者会は開催していませんが、母子通所の中で繋がりが広がっています。また、土曜開所日の行事等で、親子が一緒に活動する機会等を提案し、交流機会を提供しています。

満足度	(34) 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	・苦情受付システム体制については契約時の説明や、体制表を玄関に掲示しています。また、ご意見箱も設置しています。定例の苦情解決委員会の開催や、受付時は必要な対応を迅速かつ丁寧に対応しています。
	(35) 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信しているか	○ ※土曜活動の様子が写真掲示され、楽しそうだと感じた。会報のような物が少なくてわからない。HPを知らないかった。との意見もあり。	▲	・定期的な会報発行はしていませんが、ホームページに活動のトピックスを紹介しています。しかし、更新が年度途中から停滞している点と、更新した際に保護者に対する発信が十分でなかった点が、今後改善していくたいところです。
	(36) 個人情報に十分注意しているか	○	▲	・個人情報は、保護規定に沿って管理しており、安全に管理できています。今後、より良くしていくためにも、管理体制の強化や職員教育の継続等、さらに意識を高める取り組みをしていきたいと考えております。
	(37) 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	○	・情報伝達については、個々に合った伝え方を大切にしています。必要がある場合には、言葉以外の情報も活用するなど工夫して支援しています。しかし、画一的かつ必要なない視覚支援は、視覚情報への依存度を高め、社会活動上の課題等を大きくしかねないため、当事業所では必要最小限の補完手段と考えています。また、母子間で一緒に確認する機能や、わからない時に確認できることも育んでいきたいと思っています。
	(38) 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	—	○	・地域住民等を招待する行事の運営や、地域の子育てサロン等の地域福祉活動への参画もしています。 ・事業活動に、地域の方にアドバイザーとして指導していくたく機会や、公民館や農協等の職員等からも協力を頂くなど、地域ぐるみの運営を行っています。
	(39) 緊急時対応や、防犯、感染症等への対応についての手引きを策定し、保護者に周知されているか	○	○	・マニュアルを整備し、業務上徹底した管理に努めています。 ・保護者へのマニュアル配布はしていませんが、これらの内容がよりわかりやすく伝わるよう、事業所のオリエンテーションブック（利用マニュアル）内に必要な事項を入れ、説明しています。
	(40) 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	○	○	・法定訓練として、年2回以上の避難訓練を実施しています。また月1回の防災確認や訓練機会を実施しています。課題点は、職員及び多機能型で午前中に活動する未就学児等は毎回訓練参加ができるのですが、放課後等ディ児童の参加機会にばらつきがある点です。全児童に同様の機会を持つ工夫を行っていきます。
	(41) 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	—	○	・年1回は、全職員に法人内・外で研修する機会を持っています。また、日常活動でも、日々の確認体制を整え、指導管理を徹底しています。
	(42) どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	—	▲	・強度行動障害児等、活動に安全管理等が必要なケースは、具体的な対応等を計画に入れ、その内容を説明し、同意を取っています。また、対応を機会を作らないための支援を第一義とし、やむを得ず対応を要する時は、必要最小限の対応と支援内容の記録等を行える体制を整えています。 未だ実施実績がないことは良い事ですが、このことが職員1人ひとりの意識低下に繋がらないよう、今後も日常から徹底したリスク管理に努めていきたいと思います。
	(43) 食物アレルギーのある子どもについて、医師指示書に基づく対応がされているか	—	○	・食物アレルギーの有無等については、利用開始時に必ず確認しています。対象児は、医師の診断書の提出をいただき、提供する給食の成分表の3重チェック（保護者、事業所、給食業者）を行った上で提供しています。また、日常のおやつ等の提供時も、個々の情報を把握したリスク管理を行っています。
	(44) ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	—	▲	・ヒヤリハット等は、日常業務チェック項目に入れ、支援者間で共有しています。顕在化したリスクを、組織的に吸い上げ、対応策を講じていく仕組みづくりを、これまで以上に進めて行く必要があると感じています。
	(45) 子どもは通所を楽しみにしているか	○ ※毎回楽しく活動できている。ういるで覚えた手遊びやふれあい遊び等を家庭でも喜んで復習している。色々な事に好奇心をもって挑戦でき、充実した経験をさせていただいている。大変楽しみにしている。等の意見あり。	▲	・当事業所は、母子間で愛情と信頼感を高めながら、楽しく触れ合って、運動した遊んだりできる環境づくりに努めています。成長に必要な活動や学習機会は、「カリキュラム」としてではなく、「遊び」の中に設定を含めることで、子どもたちは遊びの中で、楽しみながら学習を進めていくよう工夫しています。支援者は、子どもたちの努力を認め、肯定的な関わりを徹底することで、自信を重ね、望ましい活動を増やしながら成長できるよう支援しています。何より、この療育機会に参加させてくれている保護者の愛情や協力があるからこそ、子どもたちは通所を楽しみにして活動できているのでしょう。 今後は、現状よりも母子のもっと小さな声も丁寧に拾い集めながら、『心から参加したい』『もっとチャレンジしたい』と思える環境づくりや活動設定等を提供していくよう、より一層努力をしていきたいと思います。
非常時等の対応				

④⑥	事業所の支援に満足しているか	○	▲	・子どもを主体としながらも、その成長に必要な機会提供に関しては、現状以上に保護者等と話し合い、共に努力や工夫しながら前進させて行くことが最も重要だと思っています。 現状に満足せず。これまで以上に、共に悩み、考え、行動し、一緒に活動していくことの事業所づくりを進めていきます。
----	----------------	---	---	--

職員の配置状況（平成31年2月15日現在）

施設長：1名、児童発達管理責任者：1名（施設長と兼務）、保育士：7名、児童指導員：3名

職員の資格 等（平成31年2月15日現在）

社会福祉士：3名、介護福祉士：3名、保育士：7名、児童指導員：3名、
強度行動障害支援者研修修了：2名、SST社会生活技能訓練：1名
職場適応援助者（ジョブコーチ）：1名 など